

大草谷津田いきものの里 自然観察会

シュレーゲルアオガエルの声を聴こう

木下順次（千葉市）

日 時：2011年5月15日（日）10時30分～12時00分 天候：晴

参加者：大人23名 子ども14名 指導員2名

担当指導員：和仁道大・木下順次

田植えのさなか、天気がよく、暑くもなく寒くもない、本当によい陽気の初夏の一日でした。あまりお天気が良いので、かえって参加が少ないかなア と思っていましたが、結局37名（内子どもさんが14名）も集まつていただき、オニヤンマの回にも負けないくらいの人出となりました。初めての参加者も何名かいらっしゃったので、いつものように「大草谷津田いきものの里」ができた経緯や注意事項を説明しました。特に今時分は、田植えの真っ最中ですから、畦のクロを壊さないよう注意しなければなりません。

出発の前に、参加者にクイズです。正解は、実際にカエルを捕まえて確認してみましょう！

質問：「カエルの趾指（あしのゆび）は何本あるでしょうか？」

子供たちの答え：「3本だよ！ 違うつ、4本！ 5本じゃない？・・・」

質問：「オタマジャクシがカエルになる時、前趾と後趾どっちが先に出るでしょう？」

子供たちの答え：「そんなの、後趾にきまってるよお！」

田圃につくとシュレーゲルアオガエルがきれいな声で盛んに鳴いています。子どもたちがタモ網をつかつてカエルを捕りはじめましたが、やがて、シュレーゲルアオガエルを捕まえてきたので、さっそく、指の数をかぞえてみました。「前と後ろで指の数が違うよ。前趾は4本。後趾は5本なんだね！」。図鑑を使って、他のカエルの趾指もみんな前が4本で後が5本であることを確認しました。

「筑波のガマの油売りでは、四六の蝦蟇なんていいますが、これは後趾にある瘤も数えて6本としたんですね」などとお父さん、お母さんたちにはもっともらしく説明しましたが、子どもたちに「どうして前と後ろで違うの？」と聞かれたたら何と答えようかと、どきどきしていました。

ニホンアマガエルもやがて捕まりました。孵ったばかりのニホンアカガエルやアズマヒキガエルも捕らえることができました。幸いなことに、ここで見られる4種のカエルすべてが揃つたので、その大きさや色柄の多様性を参加者の皆さんに説明することができました。千葉県のRDBでは、アカガエルは急激に減っているのでAランク、シュレーゲルアオガエルはDランクであることもお話し、実はカエルが生息してゆくための環境ひとつとっても、今の暮らしの中では当たり前ではないんだ、ということを再確認していただきました。

水を張った田圃の中や畦にあったシュレーゲルアオガエルの卵塊を手にとってもらったり（「マシュマロみたい！」）、シュレーゲルアオガエルとアマガエルの違いを観察してもらったり（「色が変化するのはアマガエルだけなんだ」）、オタマジャクシからカエルになったばかりの小さなヒキガエルが田んぼから無数に這い出していたり（「これがあのガマガエルになるんですか？」）、後趾が生え、眼の位置や口の形が変化しているオタマジャクシがいたり（「ほんとにカエルの顔してるっ！」）・・・。さまざまなカエルの生態を観察してもらうのには、大変よい時期だったと思います。

キビタキ、ホオジロ、メジロの囀りが聴かれたり、サシバ（2羽）が飛翔しているのが見られました。シオヤトンボがたくさん飛んでいて、捕まえた子どももいました。中にはカエルに初めて触ったという子もいました。子どもはもちろん、大人も童心にかえったアツという間のひと時でした。